

田原町立田原福祉専門学校後援会機関紙

たっぷく だより

No. 3

編集発行 平成 12 年 3 月 1 日

田原町立田原福祉専門学校後援会
会長 川 澄 春 男



日本一へのジャンプ



川添校長の
談話

田原福祉専門学校に着任してはや八か月が過ぎました。その間、夏のヨットエイドのボランティアに参加した学生が真っ黒になって戻ってきた姿、4週間の実習を終えほっとした顔、夜中まで語らいながら続けたつぷく祭の準備、いずれも「こころ豊か」な福祉実践専門家として羽ばたく頼もしい存在です。また夕方、仕事帰りの卒業生が立ち寄り語り合う姿など素晴らしいと思いました。

特に災害避難訓練に真剣さが足りないと叱られ、それなら自分たちでもう一度やるうと発奮して、目つきから違う意気込みで取り組んだのは、感動を覚えるとともに、生徒たちは与えられたものから自ら進んで行う教育、実修へと踏み出しつつある期待を抱きました。

介護福祉士養成校の増加と受け入れ施設の飽和から、入学希望者や卒業生の就職が減少するのではないかと、との予想にもかかわらず、両者ともに昨年度よりも順調なすべり出

しで、本校が東三河地方に確実に根付いているのを感じます。それには、田原町を始め町民の方々、特に後援会の皆様方のご支援、ご鞭撻の賜であることは、言うまでもありません。顧問の一番ヶ瀬康子さんは、「日本一の福祉専門学校になってもらわなければ困る。」とおっしゃいました。その理由は「町立だから」ということでしたが、教職員が生徒たち以上に、与えられた職分を越え、自ら進んで取り組む意欲さえあれば、日本一になるのはさほど難しくないと思っております。

介護福祉は、まったく新しい領域です。社会、教育、学問それぞれの分野で本校に相応しいユニークな方法を創り出しながら実践し研究して、内容を高めていけば、日本一になれるのは夢ではありません。

元校長の西三郎先生は、退職にあたって本誌に「ホップステップジャンプを期待して」と書かれています。先生をはじめ先任の方々によるホップに続いて、日本一へのジャンプをめざして、どのようにステップするかを、今、全教職員を挙げて取り組んでいます。いずれ、後援会の方々へご報告しご理解を得る機会もあるうかと存じますが、変わらぬご指導ご鞭撻をお願いいたします。

学 校 紹 介

カリキュラムを改正

平成十二年四月から

介護福祉士養成校のカリキュラムの基礎となる社会福祉士介護福祉士学校職業能力開発校等養成施設指定規則の一部改正により、養成課程の見直しが行われた。本校も平成十二年四月の新生から新カリキュラムで授業を開始する。

改正の背景

介護福祉士の資格制度は、創設以来十年余を経過し、福祉需要も増大かつ多種多様化してきた。介護保険が実施され、福祉施設だけでなく在宅介護も重要となり、専門職として介護福祉士が力を発揮する時代が訪れた。「医療・保健・福祉従事者との連携」「介護保険制度導入に伴う



ホームヘルパー科2級コース受講者

介護支援サービス実施の役割」「在宅サービス活躍の場の拡大」に伴い、社会福祉従事者の資質向上と質の高い福祉サービスの拡充は、養成校としての課題でもあり、社会変化に伴う教育内容の見直しが必要となったものである。

改正内容

開校以来五年目を迎える本校は、生命の尊重と人間の尊厳を基本に人間性豊かな福祉実践専門家の育成に努めてきた。また、充実した教育環境の中で厚生省の指定科目以外に人間学、情報処理、福祉文化活動、地域福祉実践、在宅ケア研修など時代を先取りし先進的な授業展開を行ってきた。

カリキュラム変更の主要なポイントとして、人の心を理解し満足度の高い介護ができるコミュニケーション能力(介護技術)、介護保険制度の知識(老人福祉論)、保健医療従事者との連携に必要な医学知識(医学一般)、高齢者、障害者だけでなく障害児、知的障害者、精神障害者の理解(形態別介護技術)、ケアマネジメント能力(社会福祉援助技術)、訪問介護(介護概論、介護実習)などを充実強化した。
授業時数は二千百六十時間(改正前千九百五十時間)になる予定。特

に、老人福祉論、医学一般、介護技術、形態別介護技術等の時間を増加した。
新設科目は、「社会福祉援助技術(社会調査)」「社会保障」及び福祉文化活動授業の「音楽」である。

そのほか、たはら祭りの九月十六日を休業日とし、春季休業日も卒業式後の三月十六日からとする。

養成校・教員のレベルアップ

養成校のレベルアップをねらいとした全国共通試験も、本年度の第三期生から実施した。

ホームヘルパー養成研修

平成十一年六月から附帯教育事業の一つとしてホームヘルパー科を設け三級コース(受講者二十六人)及び二級コース(受講者四十五人)を実施。平成十二年度も引き続き行う。

授 業 紹 介

食事介助をしながら
嚥下、盲なども擬似体験
介護技術で栄養調理の授業と連携して
演習 嚥下食、介護食を調理 お互いに
食事介助、擬似体験しながら演習を実施
様々な介助方法を学び、食事の大切さを理解

一年生から福祉施設で学外演習
介護実習の前から施設で学外演習を実施
その成果は...初めての第1段階実習でも
利用者と一緒にスムーズに関わることができる
学生自身が自分の学びべき目標を見極め
自主的に実習ができる 施設からも好評で
本校の介護教育の特徴に...

最新の移動、移乗用具など設置
演習グループごとに1セット
イーゼーベルト、イーゼーグライド、イーゼー
リフト、ミニムーブなど移動、移乗用具、リフターを
11年度新規に整備 今まで身につけた援助技術に福祉用具、機器を活用することで、より安楽にサービスを提供できる
これら最新機器等の様々な情報提供も介護福祉士の大切な役割 介護福祉学科はもちろんホームヘルパー科でも活用

川添登校長略歴

一九二六年東京生まれ。早稲田大学建築学科卒。建築評論家。57年毎日出版文化賞、82年今和次郎賞、97年南方熊楠賞受賞。現在、田原福祉専門学校校長(株)シーディーアイ所長、日本展示学会会長、日本生活学会設立、理事長、会長歴任。著書『裏側からみた都市』『今和次郎その考現学』『木の文明』の成立、『東京の原風景』『列島文明』『生活学の提唱』『おばあちゃんの原宿』など多数。

平成十二年度就職内定状況

十二年二月二十八日現在就職内定者71人(就職率93.4%) 特別養護老人ホーム29人 老人保健施設17人 病院12人 社会福祉協議会2人 知的障害者施設1人 その他10人



職場

訪問

みんな、がんばっています！(二)

福寿園(田原)に勤める二期生の今野真季さんと藤原久美子さんを訪ねました。忙しい仕事の時間をさいて、元気に事務室に現われた二人は、楽しそうに話してくれました。

職員の年齢も幅があり、ベテランの方は何でも教えてくださるし、気軽に聞ける雰囲気です。とても働きやすいです。

就職して、まず一生懸命に入所者の方々の名前を覚えられました。入所者の一人が、初めて自分の名前を呼んでくれた時は、本当にうれしくて感動しました。



“さあ、夕食ですよ” 食堂で介護する藤原さん



配膳をする今野さん

入浴実習では、学校と施設が同じ機械だったので、初回から戸惑うことなくすぐ慣れました。

学外実習では、実習と比べて時間にゆとりがあったので、観察力がつき、コミュニケーションのとり方が学べ、今に生かされています。

毎日レクリエーションがあり、学生の時にもっといろいろなことを学んでおけばよかったと思います。

業務には慣れてきたけれど、忙しくて、入所者の個々のニーズにこたえあげられないのが辛いです。

まだまだ未熟なため、痴呆の方への精神面での対応の仕方等、これからも勉強することが多くあります。

話し終えると、二人とも満面の笑顔を浮かべ、「仕事はすこく楽しいです。」と、瞳を輝やかせながら職場へすっとなで歩きまわりました。(柴田美代記)

福祉村(豊橋)の身体障害者療護施設「珠藻荘」に勤める第一期生の二宮久典さんを訪ねました。現在の仕事の内容は？どんな点に充実感を感じますか？

現在は、通常業務に加え、理学療法士の補助(リハビリ)をしています。体力的にはつらいですが、介護だけでなく、リハビリ等をする事によって自分のレベルアップにもつながるし、何よりも自分がやりたかったことなのでとても充実しています。

同じ人に付きつきりでもリハビリをするので変化がよく分かるし、目に見える実感があるので介助していてもうれしくなります。以前は機械相手の仕事をしていましたが、今の人相手の仕事の方が大変だけれど楽しいと思えます。

学生時代をふり返って、やってあげばよかったと思うようなことは？
やっぱり介護技術ですね。人によってやり方は違うけれど基本は同じ。現場に出る前にやれることはやっておいた方がいいと思いました。

在校生へのメッセージを…
実習に来て、やる気のある学生は見ていて分かるし、こちらから沢山学んでいってもらうと思う。外で学



入所者の方も交じえて、談笑する二宮さん(中央)

がことのできるチャンスでもある実習はしっかりやりましょう。

途中「にのみやくーん、なにやってる？」と車椅子で近寄ってきた入所者の方も加わり、話は、二宮さんのプライベートにまで及び、あつという間の一時間でした。

施設入所という生活を送っている方々にとって、「共に楽しもう」という姿勢で仕事をしている彼は、友達のような存在なのかも知れないと思いました。

(西野優子記)



第四回になる本年度の学園祭は、「みんなで作り上げていく」ことを目指し、スローガンに『心に種をまきましよう』を掲げた。
そして、来場して下さった来賓の方々・先生・先輩・友達・生徒みんなに、何もないイチヨウの裸樹に、夢や希望の葉をつけてもらい、みんなで福祉に対する心を芽生えさせていこうという思いを込めた企画を実行した。
(左の写真を参照)

心に種をまきましよう みんなの心に ～種をまいて福祉の心を芽生えさせよう～



学園祭を中心になって動かした実行委員のメンバーに、感想を寄せてもらった。
実行委員長
計画が動きだすまでに時間がかかったが、みんなの協力のおかげで、いい学園祭になりました。ありがとうございました。
ゲーム担当
(山田由美子)
準備が遅れていたの不安でしたが、祭りが始まると、予想以上に盛況で、子供も大人も楽しそうにゲームに熱中している姿を見て、私達も楽しい気分です。



を努めることができました。
一つのことをつくり上げていくのは難しいけれど、成功した時の達成感は大きかったように思います。
準備の段階から終了まで充実した時間を過ごすことができました。
(佐藤久美)
ボランティア担当
初めて担当する人がほとんど。何をどの様にしていったら良いのかわからない状況の中、「お客さまに楽しんでもらえる」という方向で意見を出し合いながら進めました。
みんなで一つの事をやり遂げることによって、チームワークの大切さを学ぶとともに、達成感を得ることができました。
今年も、長時間学園祭に参加していただいた方が多く、模擬店やゲームなどをいっしょに楽しんで交流を深めることができ、良かったと思います。
演劇担当
(渡辺恵美)
学生が、一から脚本を考える。本番二日前からは、いつも遅くまで練習を行い深夜になることもあった。
本番に近づくにつれて、セリフがしっかり言えるか、プレッシャーを感じた。
人前で演技するなんてことはできないと思ったが、やり切ることができ、何かと自信が持てるようになった。
これを機に、今後、何事にも恥かしがらず、チャレンジしていこうと思う。

茶道担当
(橋爪智史・山本隆史)
私は、昨年に続き今年もお茶会を担当しました。
昨年は初めての学祭でのお茶会だったので、お茶を出すことに精一杯でした。
しかし、今年は二年目ということ



もあり、わずかながら気持ちにゆとりを持ち、お茶を飲む方には、落ち着いたひとときを過ごしていただけるように、また、自分自身も楽しみながらお茶会を行なうことができました。

その中でも、あまりお抹茶を飲んだことのないという方から「おいしかった。」「お抹茶って、おいしいんだね。」という言葉を耳にした時が、一番嬉しかったです。

(清水美法)

1999.10.22
10.23

第4回学園祭

たつぷくさい



DJ担当

自分は、二年間たつぷく祭の実行委員とDJを担当しました。今年のたつぷく祭では、懐かしい曲のリクエストも多く、若い人から高齢者まで幅広い層の方に協力してもらえて盛り上げることができました。

(市川智也)

カラオケ担当

去年は学生が多かったけれど、今年は言語障害のある方も来てくれて、ボードを使ってリクエストしてくれ、私たちが歌うと喜んでくれました。

集まったCDが若い人の曲ばかりで、演歌などのリクエストに答えられなかったのが残念でした。

(森田亜紀子)

四年間、四回続けてきた「たつぷく祭」は、地域の人にも親しまれて、町の年中行事として根付き始めている。福祉の専門学校だけあって、参加者も高齢者や障害者の方たちを含めて幅広い。これは、「たつぷく」の特色であり、素晴らしいところでもある。ところが、生徒たちの声の中には、誇らしく語る一面、いくらかの欲求不満ものぞいている。

学園祭実行委員座談会から

高校の時の学園祭と違って、企画から運営まで全て生徒でやる。これは、たいへんだけいい。高校の時は、模擬店をやらせてもらえなかった。ここでは、これができる。素晴らしい。

学園祭に来られる人が違う。高齢者や施設の人たちが多く、人との交流ができる。

小さな学校だけど、校内を全部公開してしまうなんてすごい。前日までバタバタしてたが、始まったら盛り上がった。お茶会で、和服を着る人が多く、裏方にまわる人の仕事がいへん

だなど心配でした。係分担によっては、やりたくないのに仕方なしにやる人もいる。これが問題。

各担当の連携のまずさもありません。委員長の負担を大きくしてしまっ

た。疲れすぎて楽しいイメージはない。

係の積み重ねがない。二年生が知っているだけでは、情報が少ない。記録・反省などをきちんと残していく必要を感じた。

夜遅くまで、手助けをしてくれた人もいた。温かさを味わった。

やはり、みんなで作っていくよさを感じた。

学園祭だから、来訪者にサービスするだけでなく、自分たち自身が楽しむ企画、生徒の若いエネルギーを爆発(発散)させるセレモニーが付加されたら、もっと熱のこもった学園祭になるような気がする。



学園祭実行委員会のメンバー大集合



たっぴく ティールーム



オーナー＝柴田美代・西野優子
午後の客＝岡本貴美子・河合美佳
杉浦恵子・鈴木豊美

才 第三段階の実習を終えて、みんな疲れたような顔してるね。

客 いやいや、そんなことはないですよ。ホッとして、胸の中とってもあったかですよ。

才 率直な感想など聞かせてほしいなあ。

客 私の実習先は、身体障害の方の施設で、言葉が通じなくて困ってしまつて…。表情・態度・環境などを総合的に情報収集したところ、四週目位になってやっと気持ちを通じ、コミュニケーションがとれました。うれしくて、感激してしまいました。客 私は、一週目に力ぜを引いてしまつて、体調管理の難しさを痛感しました。

客 あまり個性を見てもみえず、「もっと元気よく!!」と言われてしまいました。

才 第三段階になると、ケアプラン(介護計画)を立てたりしたと思ふんですけど、どうでしたか。

客 対象者に付きっきりの実習で、言葉ではない訴えを理解することの難しさを感じました。分かりだした

ころに実習が終わつてしまつたのが残念です。

客 施設側が勉強会をしてくれ、「せつかく実習に来ているのだから、できるだけ多くのことを学んで帰つてください。」と親切に教えてくださる姿勢がとってもうれしかったです。

客 私は、施設側の協力があまりなく、少し残念でした。

客 私が一番うれしかったのは、誕生日会の日に『半日村』の紙芝居を実習生だけでやらせていただいたことです。職員さんの助言を得て、夜遅くまで絵を描き上演しました。入所者の方々も喜んでくださいました。客 何といつても実習生全員のチームワークができ、苦労した分、達成感を味わいました。

客 学校で学んだオムツの当て方で、失敗してしまつた。

客 ワーカーさんによって、介護技術がばらばらでどうしてよいか困つた。

客 実習先が遠かつたので、通勤に時間がかかり大変だつた。

客 毎朝、目標を聞かれたので、目的意識を持つて実習ができ、多くを学べた。

客 学校で学んだことを忘れてしまつてたが、実習で改めて復習することができました。

客 変則時間の実習もして、介護福祉士の仕事の大切さ、大変さが分かりました。

客 生命に関わる仕事ですもの、緊張しましたよ。

才 みんな、実習でそれぞれ大切なことを学び、身につけてきたようですね。実習先の方々にお世話になつたことを感謝しなくっちゃいけません。

客 学校で学んだことはあくまで基本。一人ひとりに合わせた介護はこれから勉強だよ。元気で頑張ろうね。



先輩からの一言

母校訪問ノートより

職場に入つて一番大切なこと、それは自分の健康管理だと思ひます。体があつてこそ、何でもできるのです。しっかり食べ、体力づくりに努めてください。

(細田)

腰の痛め方その一筋肉だけを使って、相手を動かそう。その二 無理矢理物事を行う。その三 夜、プライベートで頑張る。

先生方へ 卒論と卒業テストを厳しく行なうことは、生徒のためになると思はれる。留年もやむをえない。やる気のある生徒を育てていくのは先生方の責任。厳しいことが優しさにつながることを覚えといてください。

(君)

老人保健施設で働き始めて十か月半経ちます。一番初めに努力した事は、利用者の名前を覚えることです。それから、日勤・早出・遅出・夜勤と勤務時間によつて仕事の内容が違ふので、毎日メモを持ち歩いて働いています。どんな小さなことでもメモをして覚えていくようにするとよいと思ひます。働き始めても、勉強だらけです。

(内田)